

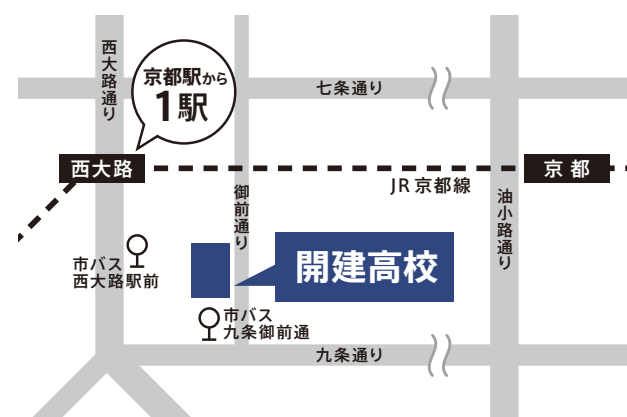
ここで出会う自分に、きっと驚く



Access

公共交通機関からのアクセス

- JR西大路駅から徒歩約5分
- 市バス「西大路駅前」から徒歩約5分
- 市バス「九条御前通」から徒歩約3分



令和5年4月開校



京都市立開建高等学校

京都市南区唐橋大宮尻町22

問い合わせ先

メールアドレス: kaiken@edu.city.kyoto.jp

電話番号: 075-681-0701 FAX: 075-682-7107



KAIKEN

京都市立開建高等学校



2025年度 学校案内



より良い未来社会の創造・協創者の育成

開建高等学校

ルミノベーション科

開建高校の教育目標は「より良い未来をめざし、個性を活かして社会を協創する生徒の育成」。

「やってみたい を やってみる」を合言葉に、

学校に関わるすべての人たちが対話を根幹とした協働によって創り上げる学校です。



6つの資質・能力

開建高校の目指す「協創者」とはどんな人なのか。協創者が身につけているものは何なのか。

それを具体化したのが6つの資質・能力です。

開建高校ではすべての教育活動においてこの6つの資質・能力を育みます。

カリキュラム・ポリシー

開建高校はすべての活動を下のカリキュラム・ポリシーに基づいて行います。

自らを変え、未来の社会を形成していく協創者を目指す生徒たちのガイドとして、ともに考え、ともに歩み、協創的に学習体験(＝カリキュラム)をつくり上げるために、教科横断的な視点や高校生活3年間の展望、多様な手立てを持ち、次に示す生徒の姿と照らし合わせながら教育課程を編成・実施する。

- 01 生徒は、学びが未知の事柄や実社会のあり方、より良い未来のあり方と自らの生き方につながっていることを実感する。
- 02 生徒は、学びを進める中で考え、多様な他者と対話・協働を通して、省察・振り返りを行い、自分の学びをデザインし、さらなる深い学びへのめり込む。
- 03 生徒は、多様な他者、地域・社会との関わり合いの中で、自らの「やってみたいこと」を見いだし、「やってみること」で、まだ見ぬ自分に変化することを期待し、挑戦する。

京都市立

開建

高等学校

正門にもあるこの揮毫は、
前身である塔南高校出身の
書家 祥洲先生によるもの。



校章をデザインしてみた！

デザインの第一線で活躍されているパナソニックデザイン京都のプロのデザイナーの方々とともに協創し、前身の塔南高校有志が、まだ見ぬ後輩たちに希望を託して校章をデザインしました。その思いを受継ぎ、未来へはばたくべく開建生たちは「やってみたいをやってみる」を実践しています。



学校服を考えてみた！

開建高校における正装として、学校服があります。式典や外部の方と関わる場面など、フォーマルな場における正装です。その他の場面では生徒たちは、TPOに応じた服装を自ら判断して着こなしています。

校歌を作詞してみた！

「校歌」ってどんなものだろう？そもそも、校歌って、誰のためのものだろう？このような問いをもとに教員・生徒を含む前身の塔南高校有志が開建高校校歌の歌詞を創り上げました。開建高校の在り方を表した校歌を、行事等の折に触れて開建生たちは歌い上げています。

学科名 ルミノベーション (Luminnovation)

「Lumin-ラテン語のLumen(=Light光)が語源」と「innovation-革新的、新しい事・物」を組み合わせた造語。

一人ひとりが高校生活を通して明るく輝きを増しながら、周囲を明るく照らすとともに、多様な光と融合し、彩り豊かな光となり未来を照らす存在になってほしいという願いを込めています。



開建高校では、生徒たちが自己決定的に学び、アクティブに取り組むことを推奨しています。教師は生徒の学びを支援し、多様な学びの場を提供することで、生徒たちが自分自身で学びを深める力を育みます。

変幻自在な学習空間 L-pod

ホームルーム教室となるL-pod は、普通教室4つ分の大きさで、壁はホワイトボードになっています。また、広い空間を4分割にできる可動式のホワイトボード壁、グループワークに適した可動式の机・椅子が完備されており、それら全てが生徒たちの学びの道具です。目的に応じて、変幻自在に形を変えることができ、多様な学びの場を提供できます。



Full Openでワークショップ型授業



L-podのホワイトボード壁をすべて収納すると、普通教室4つ分の広い空間になります。可動式の机・イスを動かしてこの空間のスケールメリットが利用できます。

その一つの例が「ワークショップ型の授業」です。

ワークショップ型授業について実際の

授業を例に説明します。例えば、国語の授業で「良い小説ってどんなものだろう」というテーマで文章を書く授業をしたとします。このとき、複数の小説を3つの部屋に分かれてそれぞれ読んだあと、ホワイトボード壁を開放し、5～6人のグループにわかれ「良い小説ってどんなものだろう」についてグループごとに議論して自分たちの結論と、それを正当化する根拠を協力していくことで多様な読み方を身につけたり、他の人の納得を得るための説明によって論理を構築する力が身についたりしていきます。

Closeで少人数講座



L-podのホワイトボード壁をすべて展開すると、普通教室が4つできあがります。開建高校では、80人の生徒と3人の教員が基本の単位となっているので3部屋に分かれて27人程度の少人数講座での授業もできます。

例えば、「ゆっくり丁寧に学びたい人」「ある程度自学自習的にやりたい人」「発展的な内容を探究したい人」のように分かれた習熟度別講座を選択したり、「教科の内容を楽しみたい人」「曖昧だったものを明確に言語化したい人」「教科書を自分で読めるようになりたい人」などの学び方別講座を選択したり、より自身の学びに応じた授業が行われています。

BYOD 一人一台端末



一人一台個人の端末を持ち、あらゆる場面で活用をします。コンピュータは連絡や動画視聴のためのものではありません。文化祭のPR動画を作成したり、プロジェクトの企画書や予算を作成したり、AIでアイデア出しをしたりする等々、あらゆる情報処理が一つの端末で可能になります。一人一台端末によって、みなさんは様々なものを創り出すことができます。もちろんその力をあらゆる学びの場面に応用することも可能です。

Home Base ホームベース



従来教室の持っていた生活空間としての機能はホームベースというL-podに隣接した部屋が担っています。収納力十分な個人ロッカーが設置されており、またソファなどもあり、ほっと一息つける憩いの場にもなっています。



未知の事柄を既知へそして熟知へと拡大していくには、考えるというプロセスをたどることが最も重要です。開建高校では、あらゆる仕掛けをつかって、生徒のみなさんを「思わず考えちゃう」方へと導きます。

開建のマナビカタ

01

問いからはじまる学び

授業の原点は、生徒の「なぜだろう?」「何だろう?」という内側から湧いてくる疑問や、不思議だなと思う感覚です。開建高校の授業では、このような疑問や感覚を大切に、「問い」として授業で取り上げながら、生徒を「思わず考えてしまう」ような状態へと誘います。

時を忘れ、思考に没頭する経験を繰り返すことで、深く、豊かに考えることができる力を身につけ、思考することそのものを楽しむことができます。

最終的には、教員ではなく自身で立てた「問い」に向かって学びを進めていくことで、自ら学び、自ら考える力を育みます。

問題

これは何の写真でしょう



02

対話・協働の学び

開建高校では、さまざまな場面で対話や協働を大切にしています。意見交換に終始するのではなく、対話により一人一人の価値観や有している特性の違いに気づき、触発し合いながら新しいアイデアや価値観を創造するような、対話・協働がもたらす世界の広がり・深まりを実感していくことを目指しています。

授業の場面でも、「問い」について思考する中で行う生徒同士、教員と生徒の創発的なコミュニケーションを通して学びを深めています。



03

個に応じた学び

集団で一緒に学んだとしても個々の学びが同じとは限りません。個人の目指すところが違えば、学び方や学ぶ深さも違うでしょう。例えば、開建高校では、探究的な学びを充実させることで、生徒一人一人が自らテーマを設定し、それぞれが個性的な目標へと向かっていくような学びも展開しています。

また、教室の形、講座の編成、考えるときの方法、使う道具等、様々な学びの手法が提示されます。自分に合った学習方法を選択することで一人一人の学びを最大化することを目指しています。



多様なカリキュラム

- 3年生前期まで総合的な探究の時間「協創」を配置し、京都全体をフィールドに多様な人々との対話と協働を通して、学びを深めます。
- 一般的な普通科の高校に設置されている科目も網羅しています。
- 1年生設置の学校設定科目「ルミノベーションI」では、すべての学びに使用するコアスキルを身につけます。
- 身につけたスキルを総合的な探究の時間や各教科・科目など、様々な場面で活用します。
- 興味関心に応じて、いろいろな科目が学べるように設計されています。

このコアスキルは「ルミノベーションI」だけでなく、すべての教育活動を通して活用し、学ばれていくものです。

詳しくは 8pへ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
1年	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ		数学A	化学基礎	地学基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	Skills in Assertive EnglishⅠ	家庭基礎	情報Ⅰ	協創Ⅰ (総合的な探究の時間)	ルミノベーションⅠ	LHR																	
2年	論理国語	古典探究	公共		数学Ⅱ		数学B	数学C	物理基礎	生物基礎		地理探究 日本史探究 世界史探究	化学	体育	保健	芸術Ⅰ (音・美・書)	英語 コミュニケーションⅡ	Skills in Assertive EnglishⅡ	協創Ⅱ (総合的な探究の時間)	LHR															
3年前期	論理国語	古典探究	倫理 政治・経済	地理探究 日本史探究 世界史探究 数学Ⅲ	数学活用α 数学活用β	言語活用 公民活用 物理基礎 生物基礎	文学国語 物理 生物	体育	英語 コミュニケーションⅢ	Skills in Assertive EnglishⅢ	国語探究(2) グローバルワーク(2) ローカルヒストリー(2) グローバルヒストリー(2) 数学探究(2) 自然科学探究(2) スポーツ探究(2) 発展の芸術(2) English Project(2) Academic Reading and Writing(2) 生活探究(2)										地理活用 日本史活用 世界史活用 化学	協創Ⅲ (総合的な探究の時間)	LHR												
3年後期																					LHR														

開建高校の授業例「絵巻物からはじまる古典の授業」

伊勢物語という古典の作品がある。これを読んでみよう。

まず、何も前提知識なく読んでみる。どうだった?なんとなくわかるようなわからないような。じゃあ次に、「絵巻物」をじっくりみてみよう。絵巻物とはこの物語をもとに描かれた絵だ。これをじっくりみてみると……「こってどこなん?」「あれ、この鬼小さくない?」「男の服装がなんか良い服だな」など様々な気づきが出てきた。

そこから、生徒たちは「ってことはこの人は貴族なのか?」「どれだけの距離を歩いてきたんだろう?」と口々に次の問いを出した。そこで本文をもう一度読んでみると「だからこんな行動にでたのか」「だからこういう描写があったのか」と読みの内容が変化していく。

ただ文法事項を使って読むのではなく、絵を手掛かりに問いを立て、物語の解釈へと分け入っていくスリリングな授業だ。また、ここから物語だけでなく、当時の文化や風俗に興味を持つ生徒も現れた。中には弓道部に所属している生徒が「この道具、いまでも使ってます!」と現代とのつながりを見つけたりもした。



教科の枠を越えた学び



開建高校では、教科の枠を超えた学びが展開され、生徒たちは授業だけでなく総合的な探究の時間や学校行事、課外活動など多彩な場面で異なる視点から物事を捉え、独創的な案を模索します。

すべての学びに活用するコアスキル

【コアスキルとは】

「探究してみよう」「考えてみよう」と言われたとき、あなたは何をしますか？

物事を上手く運ぶ人たちの行動をつぶさに観察していると、そこには一定のパターンがあります。それは考えるための技法とでも呼ぶべきものです。

そんな考えるための技法のうち、特に基本的な要素を分類・整理して「コアスキル」として開建高校オリジナルの開建コアスキルカードにしました。

【教科や探究の枠を超えるコアスキル】

例えば、コアスキルの中に「形にしてみる」というものがあります。これはどんなときに使うスキルでしょうか？

少し難解な評論文を読んでいるとき、抽象的な言葉を図で表してみると、内容が読みやすくなるかもしれません。

立体的な構造物の、部品の長さを測定したいとき、絵を描いてみたり、小さな模型を作ってみたりすると良いかもしれません。

スポーツ大会でどうしても優勝したいとき、サッカーのフォーメーションについてホワイトボードに描いてみるとわかりやすいでしょう。

このように、目に見える形にすることで、状況を整理したり、他の人とコミュニケーションをとったりすることができて、よりよく考えることができます。そしてこれは教科の枠を越えすべての知的な活動に活かされます。

教科・科目で学ぶ「パースペクティブ」



「雪が溶けると、□になる」□に当てはまる漢字一文字は何でしょう？と問われたらあなたは何かと答えるでしょうか。

多くの人は「水」と答えます。

またある人は「春」と答えます。

このように、どのような見え方で物事を見るかによって、とらえ方とは変わるものです。この、物事の見方・考え方のことをパースペクティブと呼びます。

開建高校では、各教科のパースペクティブを総合的な探究の時間（協創）と各教科の時間との往還の中で自由自在に使いこなせるようにすることを目指しています。

さて、先程の問題、ある地域の人は「楽」と答える人もいます。見方・考え方って、その人の普段の生活にも根差したもののなのです。これを自覚的に使うことで、より多面的に物事をみることができるようになるでしょう。

教科の枠を超えるって？

コアスキルは学問のみならず、料理、ダンスパフォーマンスからアニメ鑑賞まで、あらゆる活動において用いられる能力です。当然、どの教科でも使われているので、すべての教科でその扱いに習熟することができます。

コアスキルをカードの形で扱うことで、教科を学ぶ目的が各教科の知識そのものを学ぶだけでなく、あらゆる知的活動の基礎的な力を伸ばしていくことになります。

また、各教科で学んだ様々なパースペクティブで世界を眺めてみると、様々な見え方が発見できます。いままで何気なく見ていた景色も、各教科のパースペクティブを自覚した後では、そこに見えるものが全く違っているでしょう。

このように、学校での学びは単に個別の教科の知識を理解することに留まらず、あらゆる場面に生きる力を教科の枠を超えて身につけていくことでもあるのです。



例えば文化・歴史・統計などのパースペクティブから「結婚」を捉える？



学校で学ぶことと実社会の経験は、切っても切れない関係にあります。開建高校では、両者を行き来し探索していくような学びを展開することで、リアリティのある経験や問いを生み出し、学びを深めます。

働く意義を聞いてみよう

未来デザインプログラム

働く大人って、教師・消防士・銀行員など「名前のついた職業」の人だけでしょうか？実際には、名前を知らない仕事が多くあります。未来デザインプログラムでは「働く大人のリアルな語り」に触れることで、働くことについての考えをアップデートし、自分の未来をデザインする第一歩にします。



よりよい未来を協創する

京都探究

京都探究は協創Iの取り組みの一つです。京都で活躍する企業や団体の方から、「考える素材」を分けていただき、京都の街を探索したり、様々な人と対話したり、メディア通して調査したりして、大きな問題に高校生なりに挑みます。



感じたいことから始まる

研修旅行

開建高校の研修旅行はコース選択制です。でも単なる旅行ではありません。やってみたいことを実践する場として、行き先から決める研修旅行ではなく、やりたいことから決める研修旅行です。自分のやってみたいを探し、深める場として、遠くのどこかへ向かい、やってみたいをやってみます。



社会と高校の間をつなぐ

大学との連携協定

龍谷大学・佛教大学と連携協定を結び、探究型プログラムとして、実際に「大学での学び」を体験することでさらに知見を広げ、自身の「やってみたい」を模索する取り組みを行っています。



やってみたいをやってみる

総合的な探究の時間「協創」

「協創」は、開建高校の目指すべき姿であり、学校の中核をなす授業の名称でもあります。協創の時間では、気になることをとことん調べ考えたり、アイデアを形にしてみたり、様々な方々との対話・協働を通して、「やってみ」ます。やってみたいことをとことん追求していく中で、学校内外での学びをフル活用し、また新たな学びへとつながり、生きた学びへと変身していきます。

実践例

- 絵も文字もない絵本をつくりたい
- 古代エジプト人の生活についての研究
- 開建とコラボした恐竜図鑑をつくりたい
- 空の写真でアート作品をつくりたい
- 理想の海釣りルアーをつくりたい
- 食堂に新しいメニューを提案したい
- 曖昧な会話はなぜ成立するのかについての考察
- ジブリ作品に使われている効果音についての考察



student interview

かたちにする力：本づくりと音楽活動から学んだこと

総合的な学習の時間「協創II」で、私は文字や絵を使わずに本を作るというテーマを設定しました。当初は「五感を使って楽しめる本を作ろう」と考え、匂いや触感を活かしたページを作ることを目指しました。しかし、実際に匂いをつけることは難しく、失敗も多かったです。例えば、紙に匂いをつけようとしたものの、他のページに匂いが移ってしまい、最終的には視覚や触覚に焦点を合わせることにしました。



茗荷 浩平



テープが思ったように貼れず、手間がかりました。最終的に、この本作りは4ヶ月もかかり、裏表のページを作るのに非常に苦労しました。

完成した本は、思い通りの出来にはなりませんが、改良すべき点も見えてきました。友人からのフィードバックを受け、食べ物のページを増やしたり、他の要素を加えたりして、さらに工夫を凝らしました。最終的には、「海の本」として形になり、達成感を感じました。

クリス・レアの楽曲：オン・ザ・ビーチにインスパイアされて「海」をテーマにすることに決めました。自分のイメージを形にするため、海のイメージを膨らませながら、砂や波のページを作りました。特に波のページでは、画用紙とビニールテープを使って波を表現したのですが、これがかなり難しかったです。



また、所属している軽音楽同好会の活動の中で、一番悔しかったのは、今年の4月にあった大会での出来事です。思い通りのパフォーマンスができたと思っていたのに、結果は落選。自分が良いと思っていても相手に良さが伝わるとは限らないことを学びました。頑張った成果は無駄ではないと思っていますし、次こそは成功させるために、もっと努力しようと考えています。

こうして本作りや軽音楽部での活動を通じて、何事も思い通りにはいかないことを痛感しました。しかし、何度も挑戦し続けることが大切だと学びました。自分の思いを形にする過程で得た経験は、これからの人生にも大いに活かされると確信しています。

自分たちでつくる学校

生徒会活動

学校は学びの場であると同時に、生活の場でもあります。開建高校という小さな社会を、そこでの生活を健やかに楽しく、正しくしていくのは、そこで生活する生徒のみなさんに他なりません。

開建高校では、実際の社会と同じように生徒会活動に大きな権限と責任があります。

委員会一覧

全生徒の代表
生徒会執行部

開建生の知る権利を守る
図書委員会

開建高校のまつりを取り仕切る
まつり実行委員会

生徒会費“絶対”適正使用
監査委員会

学校設備の保守点検
環境向上委員会

公正な選挙を、みんなで
選挙管理委員会

New HORIZON Dayの活性化及び広報
広報NHD委員会

学校と地域の未来を考える
未来協創会議

student interview

地域とつながり、「やってみたい」が形になる学校

「地域と関わる学校って、おもしろそう」——そう思ったのが、私が開建高校を選んだきっかけでした。

開建高校は、地域との連携や体験型の学びを大切にしている学校。地元で育ち、地域の清掃活動やボランティアにも関わってきた私は、高校生活でもその延長として「地域の力になりたい」と感じていました。そんな私にとって、開建高校は理想の場所でした。



浦谷 望音



入学してからすぐ、私は「未来協創会議」に参加しました。これは、学校と地域をつなぐ独自の生徒組織で、地域のお祭りにブースを出したり、地元企業と一緒にワークショップを企画したりと、実践的な活動を行います。たとえば、わくわくどきどき西寺公園秋祭りに開建高校として参加しました。その中で、岩本印刷さんという地元の企業さんが出店していた「オリジナルノート作成」のブースのお手伝いもさせていただき、自分の手で地域の方との交流を生み出す楽しさを実感しました。



まさに「チームで創る」面白さそのものでした。

入学前は「やりたいことが見つからない」と思っていた私ですが、今は「やってみたい」がどんどん湧いてきます。開建高校は、そんな私の「初めの一歩」を応援してくれる場所でした。

また、忘れられない経験が「南区70周年記念ロゴプロジェクト」です。地域のみなさんと一緒に「南区らしさ」について考え、企業の方々とも協力してロゴをデザインしました。意見のぶつかり合いもありましたが、お互いの大事にしたい部分を活かしながら、地域の声も取り入れて、一つの作品を作り上げる経験は、

学校を飛び出す開建生

多彩な課外活動

「やってみたいをやってみる」の実験の場 New HORIZON Day

New HORIZON Dayは生徒のやってみたいを気軽にやってみる場として年に数回設定されています。この日は優先的に学校の施設を使えます。どんな企画でも、適正に企画して、仲間を集めればあなたもすぐにできます。アイデアをすぐ形にできる、開建ならではの取り組みです。



実践例

- 大喜利大会
- 手加減なしのドッチボール
- 開建Mリーグ
- Lpodを徹底的に掃除する会
- 京都検定クイズショー
- 体育祭競技を考える会
- みんなで餅つき大会
- 図書館で弾き語り

等々多数！やってみたいの実験の場



生徒プロジェクト

開建生は様々な「やってみたい」を形にし、その中には、仲間が必要だったり、資材が必要なものもあります。

そのような規模の「やってみたい」も、計画、企画案を提出し、場合によっては支援しながら、実現することを目指せます。



とことん追求する 部活動

「やってみたいをやってみる」場の中でも、継続性を持って、仲間とともに卓越した活動に取り組む場を保障するため、私たちは部活動を設置しています。生徒の自主的な活動ですので、その発足、維持、運営について生徒のみなさんの責任も大きい活動です。



実践例

- 中学生に学校の魅力を発信
学校説明会スタッフ
- 留学生と開建高校で交流
国際交流Day
- 開建高校のプロモーションビデオをつくらう
学校紹介動画作成プロジェクト
- 地域の魅力をおにぎりで発信！目指せ商品化
おにぎりプロジェクト
- 開建高校を緑あふれる学校へ
校内緑化プロジェクト
- 子どもたちが楽しく過ごせる南区を
「南区ふれあいまつり」への参加

等多数



文化系

華道／茶道／書道／美術／科学／
新聞／放送／吹奏楽／ESS／
軽音楽（同好会）

体育系

バレーボール／バスケットボール／
バドミントン／弓道／硬式野球／
サッカー／陸上競技／テニス／
ソフトテニス

student interview

「京都が好き」その気持ちが僕の原動力になった

「京都って、やっぱり面白い」。そう思うようになったのは、高校に入ってからでした。1年生のとき、学校説明会のスタッフとして活動したのが最初のきっかけです。もともと中学のときに開建の説明会に何度か行って、生徒が主体となって説明している姿に憧れを持っていました。実際に自分がやってみると、相手の意見を聞きながら調整したり、みんなで一つのものを作り上げたりすることの面白さと難しさを実感しました。



北野 湧成



2年生では「未来協創会議」にサブメンバーとして参加しました。学校の会則を見直すという大きなテーマに対して、自分なりに「理想の学校像」を考えるようになって、全体の意見をまとめる調整役を務めることになりました。そこで得た対話の力や柔軟な視点は、今の活動にもすごく活かしていると思います。その頃から、自分の「好き」や「得意」をもっと探究につなげたいと思うようになって、自然と地元・京都に関心が向きました。幼い頃から商店街やお祭りなど、地域の文化に触れてきたこともあって、「京都の魅力をもっと多くの人に知ってほしい」という思いが芽生えました。



そこから始めたのが、「京都検定クイズショー」という取り組みです。〇×形式で京都の地域や文化に関するクイズを出題するというシンプルな企画ですが、参加者に「なるほど！」とか「へえ〜」と言ってもらえるのが嬉しくて、New HORIZON Dayでの発表をきっかけに、京都府下の高校生が自分たちの探究内容について発表した「京都探究エキスポ」などにも参加するようになりました。昔は人前で話すのがすごく苦手だった僕ですが、今では発信することが楽しくて仕方ありません。現在は、南区役所の方との連携やSNSでの発信など、学校の外にも活動の幅を広げていこうとしています。京都という地域を、自分なりのやり方で盛り上げていける。そんな実感を持てたことが、僕の高校生活の中で一番の財産です。

student interview

自分たちでつくる学校だからこそ、変えていける面白さがある

「“やってみよう”を本気でやれる学校」。それが、この学校を選んだ理由でした。入学してから、自分の「やってみたい」が形になっていく場面がたくさんあって、本当にこの環境でよかったと感じています。印象的だったのは、企業と連携して進める「おにぎりプロジェクト」。校内コンテストでは最優秀にはなれなかったけれど、企業の方に提案した僕たちのアイデアが評価され、個別にコラボレーションが決定。きつね丼をイメージしたおにぎりを開発し、商品化に向けて動いています。自分の考えたものが実際に形になる経験は、大きな自信になりました。

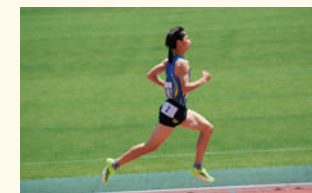


渡邊 勝斗



文化祭では、80人をまとめる総監督を経験。中学までは「自分が正しい」と思いがちでしたが、仲間を信じて役割を任せろふ大切さを学びました。自分ひとりでできることには限界がある。だからこそ、みんなで作り上げる楽しさや意味を感じられた行事になりました。

部活動では、陸上部に所属し中距離種目に取り組んでいます。専門の指導員の先生と、自分の体調や課題を話し合いながら練習メニューを調整し、ただ指示に従うだけでなく、自ら考えて動く力も身につけてきました。学年別大会での近畿大会出場や、今後のインターハイも目標です。



この学校はまだ完成されていません。でも、だからこそ、自分たちの声で未来をつくっていきける可能性があります。生徒会や委員会など、学校の仕組み自体に関わるチャンスもあるし、「もっとこうしたい」と思ったことに挑戦できる環境があります。未来の後輩たちへ。もしあなたにこの学校を、もっと面白くしていきたいと思います。

志を実現する キャリアサポート

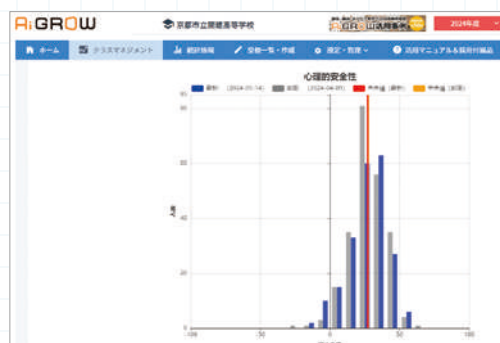
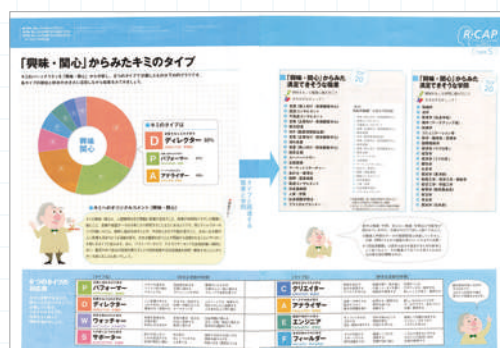
カリキュラム全体を通じた キャリアサポート

【地域社会でキャリアについて学ぶ】

様々な分野で社会に貢献している人たちと対話・協働できる機会が用意されています。社会で活躍する人たちの講演を聞き、実際に企業や大学へ行って対話する中で今まで知らなかった世界について学び、自分の価値観や視野を広げます。

【課外プログラム】

生徒の興味・関心に課外でも応えるために、いくつかのプログラムを準備しています。「やってみたいをやってみる」ことの真骨頂は、主体的に選ぶことです。より深く興味のある分野について知るために活用してください。



データ分析によるサポート

【Ai Grow・R-CAP】

自分の考え方や行動の特性などについて、客観的に捉えることができるツールを自己分析に用います。1つのツールだけでなく複数のツールで分析することで、自分の可能性を多角的に捉えることができます。

【学びのポートフォリオ】

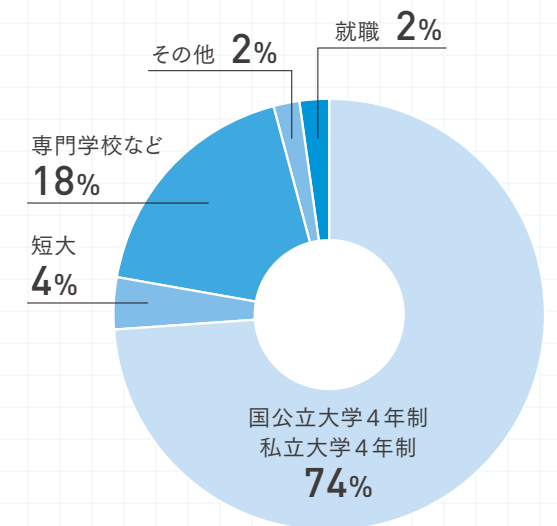
日々の活動での気づきや学びを言葉にまとめる学びのポートフォリオは、開建高校ではより一層重要な役割を果たします。開建高校での3年間を過ごした後、学びのポートフォリオには皆さんの挑戦と、豊かな経験の記録が残されていくはずです。

【学力アセスメント】

授業を通して身につけた知識・技能や思考力・判断力・表現力について、いまどの程度の水準にあるか、全国的なテストに定期的にチャレンジします。これにより、現状を分析し、ふり返って次の学びにつなげることができます。

多様な進路に対応

グラフは過去2年間の塔南高校の進路状況の割合を表示したものです。塔南高校の時代から、大学進学が最も大きな割合であるものの、就職も専門学校への進学も常にサポートしてきました。そのノウハウは開建高校にも受け継がれています。生徒がより自由に進路を決定できるよう、多様な進路先への道筋をガイドできるようになっています。



多様な入試にも対応

生徒の進路先で最も大きな割合を占める大学。近年、その入試が多様化しています。学校推薦型選抜や総合型選抜といった、狭義の学力を測るだけでなく、いままでの経験やこれから学びたいことについて、書いたり話したりするような形の入試が増えています。

2024年度入試では、大学入試全体の51.1%が学校推薦型選抜および総合型選抜となっています。

本校では、学校推薦型選抜および総合型選抜に対応したサポート体制を構築、生徒一人一人にマンツーマン指導を行う全校指導体制を確立しています。また、充実した総合的な探究の時間や、様々な課外活動、生徒プロジェクト等の経験は、新しい入試における強みになります。



進路希望によらず確かな学力を

大前提として高等学校では、進路に関わらず、身につけるべき資質や能力を育成することが第一義の目的です。

本校卒業時に身につけてほしい資質・能力のひとつの指標として、大学入学共通テストに挑める学力を身につけることが挙げられます。大学入試をする・しないに関わらず、本校生徒が身につけられるように授業を展開しています。



KAIKEN

Q & A

学校説明会 などがありますか？

令和7年度は以下の日程で行う予定です。

第1回学校説明会	7月12日(土)
オープンスクール	8月21日(木)
第2回学校説明会	9月20日(土)
第3回学校説明会	11月1日(土)
個別相談会	12月6日(土)

詳細は随時ホームページ上に公開します。申し込みは説明会開催20日前頃から開始する予定です。座席数に限りがございます。必ずお申し込みの上ご参加ください。

入学年度の諸費用 は いくらぐらいになりますか？

正確な数字は入学時にお知らせしますが、昨年度の分を参考にして下さい。

合計 316,630円 + 研修旅行費

〔内訳〕	○入学金(5,650円)
	○授業料 (118,800円/年額 * 就学支援金対象の場合は不要)
	○タブレット費用(83,600円) * BYODですのでご購入いただくPCの目安の費用となります。
	○教科書(25,000円) ○諸費用(42,100円)
	○学校服(39,100円) ○上履き(2,380円)

※上記費用に、研修旅行費用が別途必要です。(費用は行先によって変動しますが、国内であれば100,000円程度、海外であれば200,000円程度になります。)

自転車通学 はできますか？

はい。自転車通学を希望する場合は、学校に申し出て登録が必要です。自転車通学にも対応できるよう、駐輪場を設置しています。

開建高校の 入学者選抜 は どのようなものですか？

(参考：令和7年度入学者選抜)

募集定員 240名

通学区域 京都市・乙訓通学圏

選抜方式・検査内容

- ・前期選抜：120名
(A方式1型96名／A方式2型24名)
学力検査(共通)、報告書、グループ面接*
- ・中期選抜：120名
学力検査(共通)、報告書

※詳細については、必ず京都府・京都市教育委員会が9月発行の「令和8年度京都府公立高等学校入学者選抜概要及び前期選抜等実施要項」をご確認ください。

服装 は自由ですか？

はい。学校服を全員に購入していただき、式典や校外での活動等では着用しますが、普段の学校生活においては、生徒自身がTPOに応じた服装を自分で考えて選択します。

例えば、式典や、外部の方とお会いするときなどは正装でなければなりません。開建高校生の正装は学校服であり、正装には正装の着こなしが要求されます。これは校則の話ではなく、社会常識です。学校服は私服ではないので、正しい着こなしがありますし、加工は厳禁です。

一般的な講義形式の授業 はありますか？ また、補習 などがありますか？

必要に応じて、講義型の座学もあります。小テストや補習などもあります。開建高校は新しい学びの形が多彩に用意されていますが、すべてが一律ではなく、適切な状況でバランスよく行われます。

君たちの成長を後押しするキャンパス

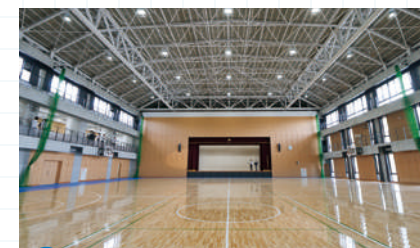
FACILITIES

施設紹介



01 グラウンド(人工芝)

京都の公立高校では設置が少ない、全面人工芝のグラウンドです。その他にも全天候型の陸上トラックや砂入り人工芝のテニスコート、弓道場など、屋外での様々な活動を支える施設が盛りだくさん！



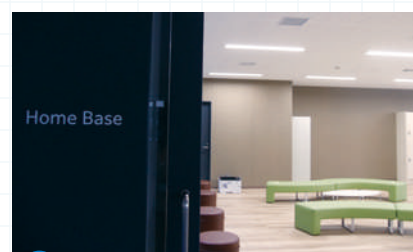
02 アリーナ

バレーボール・バスケットボールの公式戦や、マーチングバンドの演奏も可能な大空間です。アリーナの二階には観覧席も設置されていて、臨場感たっぷり！



03 ホール(講堂)

冷暖房が完備されていて、各種式典だけでなく運動することももちろん可能！広いスペースで様々な屋内活動ができます。



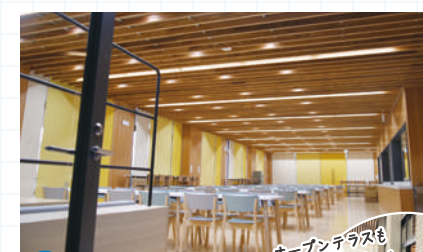
04 ホームベース

十分な収納力をもった一人1個の個人ロッカーがあり、またソファなど、ほっと一息つける憩いの場にもなっています。



05 L-pod

普通教室4つ分の空間が、君たちの学びの空間！目的や場面に応じてホワイトボードの間仕切りで部屋を区切ったり、様々な設備を活用して学びを深めよう！



06 カフェテリア

お昼休みや放課後などに利用でき、美味しいメニューが盛りだくさんです。地域の方も利用することができます。協働の場にもなります。



ロビーは、グランドピアノもあり、様々な形で生徒が憩える場になっています。



07 プレゼンテーションルーム

一学年全員が一堂に会して、発表にも講義にも議論にも使える多目的な場所です。大画面で映像を鑑賞したり、プレゼンテーションを流したり、自由な発想で活用できます。



08 地域協働スペース

ここは地域住民の方にも開放されているので、様々な人と対話したり、絵本読み聞かせ会を行ったりするなど、様々な形で一緒に活動することができます。

